

道連ニュース

2011年11月号 No.65

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

道連報告

TPPは国益に合致せず

～首相表明で麻田会長が所感を発表しました～

北海道生協連は11月12日、野田首相が「TPP交渉参加に向けて関係国との協議に入る」ことを表明したことを受け「日本の国益には合致しない」との麻田会長の所感を発表しました。「日本農業を再生するにはTPPはマイナスでしかない」とし、政府に十分な情報提供や国民的議論を求めました。

所感ではまた国家財政の逼迫を指摘し、国内農業対策の財源確保に強い疑問を提示しました。食料やエネ

ルギーなどを地域で自給する社会の構築を求めています。

(11/16日本農業新聞。所感全文は道連HPにアップしています)



日本農業新聞記事

灯油価格の引き下げを

～北海道地方灯油懇談会が開催されました～

11月11日、例年開催されている「北海道地方灯油懇談会」が開催されました。当会の前川専務が参加し、①灯油価格の安定・適正化、②危機管理と安定供給について意見交換しました。

①について開催目的が「灯油の健全な流通の発展に資する」懇談会の限界があるため、C I F 価格や円高還元などの大企業の社会的責任への指摘にはすれ違いのままでした。又②について行政・元売り各社は、東日本大震災を受けての対応に反省は少なく、成功例的

な総括でしかありませんでした。

業績好調の元売各社は、相場変動を理由に更なる価格誘導を目指しています。引き続きその動向に留意すると共に、「灯油対策委員会」の再開を含む行動の準備が必要です。

尚、懇談会には石油業界側の一員としては初めて株エネコープ遠山専務が、又オブザーバーで井上コープさっぽろ理事が参加されました。

コープ
さっぽろ

第8回「コープさっぽろ農業賞」の表彰式が行われました

～道内94市町村から114件(農業86件、漁業7件、交流21件)の応募～

11月11日(金)、「第8回コープさっぽろ農業賞」の表彰式が札幌パークホテルで行われました。94市町村から114件(農業86件、漁業7件、交流21件)の応募があり、その中から農業大賞・北海道知事賞を短角牛の生産者えりも町高橋牧場、コープさっぽろ賞を有機農業の当麻町(有)グリーンライフ、有機酪農の中標津町養

第8回目をもって終了した農業賞。今後は3年毎に開催を報告。



老牛山本牧場、漁業大賞・コープさっぽろ賞を北海道で唯一海苔生産者佐呂間町(株)カネテツ谷川水産が受賞しました。

ささやかでも

北海道の元気の一助になればと、日本で初めて消費者サイドから農業生産者を応援する企画としてスタートした「コープさっぽろ農業賞」ですが、第8回は一端のまとめとし、次のステップを目指そうと取り組んできました。今後は3年に1度という形で継続することを実行委員長である大見理事長から報告がありました。2014年にコープさっぽろ農業賞は新たなステージへ進みます。



定款・会費基準・規約等の変更が議論に

～第2回道連見直し検討委員会を開催～

10月27日、全労済北海道会館にて第2回道連見直し検討委員会が開かれました。座長の河原高齢者生協理事長を始め、全メンバーの出席で前回の振り返りを含め意見交換がされました。

道連のステータス・ポジションには高いものがあり、会員生協の連合会に対する主体的ニーズの醸成には、更に時間が要ると考え、2年間程度は現状の機能が維持できるレベルを延長線上で当面想定しました。

定款・規約等では現状では不整合な箇所など、理事会及び総会での変更案を検討しました。また会費基準では、歴史的経過を踏まえつつ、地域購買生協及び北大生協に依存する実態に柔軟な対応が可能となる様、3つの試算を交えながら議論となりました。

今回は12月に開催し、議論の継続に加え総会運営のあり方などの検討と中間答申案が予定されています。

生活クラブ生協「わくわくまつり」に3,000人の来場者！

当生協では年に一度、組合員が生産者とともにまつりを開催します。今年も10月29日(土)、札幌コンベンションセンターにて、「わくわくまつり・つくる手食べる手その手はひとつ」が開催され、約3,000人の来場者がありました。

5月より、組合員有志の実行委員会を立ち上げ、「ごみをださない祭りにしよう、風力発電を使用しよう」など生活クラブらしい祭りをつくりあげていきました。

道内28の生産者、道外11生産者が試食と販売をし、多くの組合員が手伝いに入ったり、購入時に話を聞いたりして交流し、生産者を身近に感じることができました。また、お汁粉、豚丼、ナンピザ、ちらしずしなど安全安心な消費材を使った13の模擬店コーナー、子どもが遊べる子どもコーナー、組合員のつくる26の手作りショップなど組合員の出店も多岐にわたります。ステージでは一世一代時代組（通称ごみ拾い侍）の出演のほか、支部対抗ゲーム、脱原発宣言と組合員による「世界中の子どもたちが」の合唱、消費材があたる大抽選会な

どが行われました。

今年3月に東日本大震災がおき、被災された生産者がいました。そこで、私たちの応援の気持ちを生産者に伝えたくて、『三陸水産応援



東日本大震災「三陸水産応援コーナー」を設置

コーナー』を設け、いか焼き、未取組品の販売、応援メッセージボードをおき、組合員のメッセージを書いてもらいました。また、各委員会活動の日頃の活動の展示等が行われましたが、とりわけ、福島第一原発の事故をうけて展示された脱原発・市民エネルギー委員会の展示が好評でした。

祭り全体を通して、生活クラブの組合員活動の原点、未来の子ども達に「安全な食、きれいな水・森を残していこう、核のない平和な未来をつくっていこう」をあらためて再認識でき、これからの組合員活動の意義、可能性を確認できるお祭りでした。



大勢で賑わった「わくわくまつり」会場

る大抽選会な

北海道学校生協 生協強化月間『学校生協ラッキーまつり』を実施

～東日本大震災復興支援特別企画・みなさんの利用から3%を被災地の支援に！～

北海道学校生協では、毎年10月・11月の2ヶ月間を「生協強化月間・学校生協ラッキーまつり」として、組合員の日頃のご利用に感謝し、多数の特典を用意して学校生協の事業の紹介、未加入者の方への出資、既加入者の方へ増資の取り組みをしています。

今年度の重点取り組みとしては、東日本大震災復興支援・特別共同購入を実施しました。今回の共同購入は、被災された東北各県の商品を中心にした構成で、ご利用金額の3%を支援金として、日本生協連を通じて各県の被災者救済基金等へ寄贈することとしました。

この「生協強化月間」を通して一人でも多くの方に、学校生協を知ってもらい、利用してもらうことを念頭に役職員一丸となって取り組んでいます。



広報誌「学校生協ニュース・生協強化月間特集号」と東日本大震災「復興支援特別企画」チラシ